

19. 打出駅周辺の「イチ押し産業遺産」

<物流の要衝「打出（うちで）」の面影>

打出駅は、明治38年（1905年）の阪神電車開通と同時に、旧打出村に開設された。地名「打出」の由来は、旧西国街道により京都を出発して初めて海に打ち出る所とされている（掲示：北東へ徒歩8分の大楠公戦跡）。旧西国街道は、現在の阪神本線北沿いで西宮から打出に入り、打出で北西に伸びて現在の国道2号線に入る本街道と、西進して現在の国道43号線に入る浜街道に分かれていた。旧西国街道沿いの打出は、西宮から宮水や酒米を神戸東灘の酒造地へ運ぶなどの重要な物流拠点であった。大正末ごろの道路には馬車運送のために六甲花崗岩（今も市内各所で彩るピンク色の御影石）の板石が敷設され、馬小屋や駕籠屋が置かれていた（出典：芦屋市史，2010年）。

打出は今も、南北約600mの狭い範囲に、国道43号線、阪神本線、国道2号線、JR神戸線を抱える物流の要衝である。写真上：北西へ徒歩8分の宮川に架かる国道2号線「打出橋」は、大正15年（1926年）に竣工した7.3mの鉄筋コンクリート製の橋だが、橋の四隅には珍しい照明が付けられ、欄干には鋳物で横S字の装飾が付けられていて、当時の技術者のこだわりを感じることができる。写真下：少し下流には、新しい橋だが、旧西国街道の名を残す「西国橋」が架けられている。
(秋末 徹 記)

